

福島県立小高商業高等学校

校舎の正面玄関 ▶



三年

佐藤 佳子

「愛は社会生活の源泉、愛なければ
榮えず、智は文化発展の基礎、智な
ければ開かず、働は人生の生活使命、働
なければ立たず」

この「愛・智・働」は、我が福島県
立小高商業高等学校の校訓です。

本校は明治四十三年、相馬藩の発祥
地である小高町に、小高裁縫学校とし
て設立されて以来、農業科、家庭科を
母体として発展し、昭和四十八年には
商業科が創設され、本年で七十三年の
歴史をもち、卒業生は一万名に及んで
います。

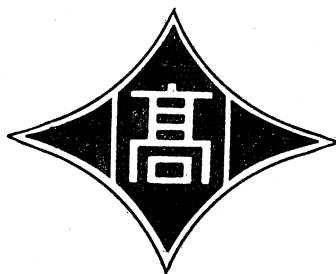
昨年、小高高等学校の校名を小高商
業高等学校と改称し、現在商業科四学
級編成による名実ともに相双地区唯一
の商業教育の殿堂となりました。

商業高校としての歴史は浅いけれど
も私たち四百五十九名の生徒は、誠実
にして実行力のある経済社会での有為
な産業人をめざして勉学にスポーツに
励んでいます。男女共学ですので互い
に協力し、なごやかに明るい学校生活
を送っていますが、男子生徒が少ない
ため、部活動の編成では悩みもあ
ります。それでも運動部では、ボクシング
部が東北大会、全国大会出場の実績を
もち、硬式の野球部は三年目にして、
今年には各種大会初戦を勝ち抜き、地区

の台風の目として警戒されています。
文化部での珠算部は、今までに東北大
会、全国大会で活躍し、今年も上位入
賞をねらって努力をしています。

現在の小高神社は相馬城の最初の遺
跡としても知られています。その当時
小高城をはるかに眺めると、ちょうど
舟が海に浮かんでいるように見えたの
で、別名浮舟城ともいわれたといいま
す。この名に因んで我が校の生徒会は
「浮城会」と名づけられ、生徒会活動
の活発化を図ってきました。

創立以来、農業祭などを通して、我
が校と地元住民との結びつきは深く、
商業高校となった現在も私たちは何か
につけ地元の暖かい支援を受けて学校
生活を送っています。このような恵ま
れた環境の中で、私たちは今後ともが
んばり、長い歴史の中で育まれてきた
校訓「愛・智・働」の精神を受け継い
でいきたいと思っています。



(校長 大河原和助・生徒数 459名)

ぼくの学校わたしの学校